

## 片岡直樹川崎医科大学名誉教授が本部を訪問される

### 「伝承遊びの「お手玉」が脳の発育や子育てに」

日本のお手玉の会和歌山のお手玉の会の森勝代会長が、昨年12月に「読み聞かせ講習会」に参加し、川崎医科大学名誉教授の片岡直樹先生の講座を受講した。

その際、片岡先生から、「お手玉をしている時に前頭前野が活発に働く」というお話や、「お手玉やけん玉など、むかしの遊びをすることが子育てにより効果をもたらす」というお話があった。

さらに、片岡先生は、日本大学教授で脳科学者の森昭雄医学博士(日本のお手玉の会顧問)の著書『ゲーム脳の恐怖』(ゲーム脳の改善にお手玉をすすめている)が紹介された。

森さんは、後日、片岡先生に電話で「講座のお礼と、お手玉遊びが子育てによいことを取り上げてくださり、日本のお手玉の会に所属してお手玉の普及活動に取り組んでいることに、大きな自信と勇気がわいてきた」ことを伝えた。

そのことがきっかけとなって、片岡先生は、早速、1月16日に日本のお手玉の会本部(新居浜市)を訪ねてくださった。

本部では、日本のお手玉の会副会長の長野文彦さん(社会福祉法人はびねす福祉会理事長)、日本のお手玉の会新居浜支部監事の檜垣和子さん(同社会福祉法人本部長)と、本部事務局の武田信之と増原勝将の両事務局員が、本部そばの同社会福祉法人の理事長室でお会いした。

片岡先生は、パソコンを開いて、幼児の現状を映像で見せながら、「テレビやビデオ、CDに子守をさせていることが原因で、新しい『言葉遅れ・コミュニケーション障害・発達障害』を引き起こしている」と話してくださいました。

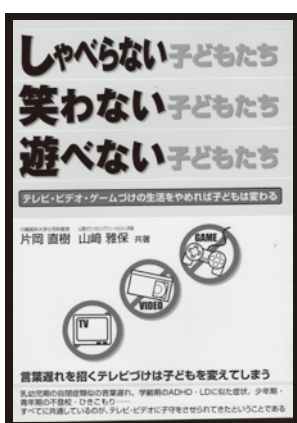
「これからは、日本の伝統的な育児を取り入れるとともに、お手玉、けん玉などのむかし遊びを広めることが、子育てには大切になる。一緒に手を取りあって、『発達障害を予

防する子どもの育て方』に取り組んでいきましょう」といつてくださった。

片岡先生、森先生のご指導をいただきながら、日本のお手玉の会としても、今後は、健全な『子どもの育て方』にも取り組んでいくことが大切になる。

0歳児から3歳までの子育てでされているお母さんにぜひ、読んでいただきたい本をご紹介します。

【片岡直樹先生の著書】『テレビを消したら 赤ちゃんがしゃべったー笑ったー!』、『テレビ・ビデオが子どもの心を破壊している!』、『しゃべらない子どもたち 笑わない子どもたち 遊べない子どもたち』(共著)、『発達障害を予防する子どもの育て方』(共著)(以上メタモル出版)



お母さんの顔を見ない、赤ちゃんが増えているのはなぜ? ことばを言えない3歳児はなぜ? 立って歩かない幼児が...なぜ? こんな疑問が本の中に